

課題NO.1

農村の維持発展を支える法人経営の体質強化

活動期間：令和3年度～令和5年度

対象者：農事組合法人あきう生産組合(役員8人)

チーム員：安達裕美、宍戸修、永田悦祈、八木沼湧太

1 課題の背景・ねらい

(1) 背景

- 設立：平成28年にJA出資型法人として設立（前身：秋保転作組合）
- 構成員：22人(理事7人、監事1人)
- 経営規模：水稲12ha、大豆50ha、そば25ha
- 排水不良地や土壌タイプの異なるほ場が多く、**水稲・大豆・そばの収量は総じて低い。**
- 大豆を中心に**鳥獣害が多発**し、収量に影響を及ぼしている。
- **構成員が高齢化**しており、**若い従業員の雇用を計画**しているが、優秀な人材を確保するため、魅力ある**労働環境の整備**が必要である。



秋保在来そば



(2)ねらい

- 水稲、大豆、そばの生産技術が向上し、地域農業の持続的な受け皿として安定的な経営が行われる。
- 新規園芸品目が定着し、農地及び労働力が効率的に活用される。
- 雇務管理基盤が整備されることで人材確保に向けた積極的な活動が行われるようになる。

●数値目標： 農産物売上高増加率 R 1 :基準年 0

R 3 : 3 % 増 → R 4 : 5 % 増 → R 5 : 8 % 増
(R3実績9.4%増) (R4実績14.8%増)

2 活動内容

(1) 水稲、大豆、そばの安定生産技術支援



大豆については、碎土率を変えて試験ほを設置

そば 苗立ち状況

2 活動内容

(2)新規園芸品目の導入及び栽培技術支援



そらまめ

- ・ R4.11月中旬に定植(3作目)
- ・ R5.6月上旬より出荷
- ・ 定植、越冬管理、防除指導

えだまめ

- ・ R5 5月下旬から播種時期や品種を変えて播種

ブロッコリー

- ・ R5 7月末, 8月上旬播種、8月24日定植
- ・ 組合として取組開始

2 活動内容

(3) 労務管理基盤の整備支援



乾燥調製施設導入支援

- ・ 補助事業の活用支援
- ・ 規模算定、労働量・労働力の変化、施設運営経費など、各種シミュレーション
- ・ 関係機関との調整

3 これまでの活動成果

- 試験結果に基づく増収対策（大豆）
- 新規園芸品目としてえだまめ試作
- 労務管理基盤の整備に対する役員の意識の変化



大豆試験ほ



えだまめ

4 今後の対応

- (1) 水稲，大豆，そばの安定生産技術支援
引き続き大豆調査ほの生育調査を行い、
収量・品質調査を実施し、実績検討会に
おいて次年度の栽培に反映させる。
- (2) 新規園芸品目の導入及び栽培技術支援
そらまめ、ブロッコリー、いちじく、
えだまめは現地巡回や病虫害防除等
資料の提供により支援を行う。
- (3) 労務管理基盤の整備支援
施設導入を計画する中で、役員も新しい
人員確保の必要性を強く認識し始めており、
就業規則等の整備に着手すべく検討開始。
関係機関と連携しながら支援していく。



あきう生産組合の米・そば



そらまめ



ブロッコリー



乾燥調製施設視察